

電気防護柵の補助

500万円

問 電気防護柵補助金の内容について。

答 補助率は30%で、集落で上限20万円という制度になっていますが、個人負担が伴う場合は、地域でとまらない場合もあり、認定農家にとって獣害は死活問題となることから、認定農業者や認定新規就農者への補助も拡大します。

農産物加工品の開発

170万円

問 農産物加工品等開発事業補助金の内容について。

答 今後、加西市を訪れる方も多くなると見込まれるため、市内産の農作物を使用して、加工に取り組む若い農家や事業者を支援します。また、農業者の所得の向上には品質の良い農産物を作ることに加えて、商品を手に取ってもらうためのパッケージデザインなどによる販売促進が必要です。

この補助金では、市内の加工業者も補助の対象に加え、加工品の開発と農産物の販売促進につなげていきます。



環境保全ゾーニング事業

1,600万円

問 環境保全対策ゾーニング事業の委託内容について。

答 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、円滑な再エネ導入ができる促進区域や、災害防止、自然環境等への配慮から抑制区域の設定をするための環境調査や検討、ゾーニング、地域住民等への意見聴取を行います。国の補助金の交付を受けて実施するものです。

問 導入する再エネの種類は。また、再エネ促進区域、再エネ抑制区域はどのように設定するのか。

答 加西市は温暖な気候で晴れの日が多いことから、太陽光発電が最適な再エネと考えます。また、区域の設定に当たっては、加西市の自然や社会的な条件を踏まえ、地形や地質の環境調査等を実施し、住民の理解も得ながら進める予定です。有識者をはじめ、地域の利害関係者からの意見も頂いてゾーニングマップを作成します。



※ 以上のような質疑の後、本会議最終日に修正案が提出されました。

(修正案の主な内容)

- ・子育てプロモーション等のシティプロモーションは、市が行う広報活動等を効果的に活用すれば、あえて予算を割く必要がなく、削除する。
- ・こども園の副食費無料化を既に実施しており、保育料を無料化するならば、主食を無料提供すべきと考え、その費用を増額する。

など多数

討 論

原案に反対・修正案に賛成

- ・こども狂言塾も習い事の一つ。市長が推進する施策だから月謝が安くて構わないのはおかしい。加西能の委託はこれまでどおりであるが、狂言塾の運営や演者との打合せ、ポスター作製などは実行委員会が主体的に行うべきもので、それが市民に根付く伝統芸能である。(本会議)
- ・子育て世代というターゲットに対し、ミスマッチの予算ではないか。人材育成しても出口戦略がなく、子育て期間の生活支援をするだけで、余計に流出する結果になるのではないか。給食費を無料化するなら、こども園の主食(ご飯)も無料にし、園の給食で出すべきだ。(本会議)

原案に賛成・修正案に反対

- ・野村萬斎さんに来ていただき、子供たちが直接指導を受け、発表の場が広がり、成長している。手頃な金額で本場の能や狂言を観ることができるのは市民にとって本心にうれしい。狂言は市民の興味の一部になってきており、こうした伝統的な事業は継続し、強めていかねばならない。(本会議)
- ・給食の無料化やゼロ歳から2歳児の保育料無料化など、これまでになく施策が前進した。人口増対策というよりも福祉や暮らしをしっかりと支援することで住みやすく、選ばれるまちになるのではないか。無料化に伴う主食の負担の指摘は全く同感であり、今後は改善されるべき。(本会議)

議決結果

賛成多数で原案可決

